

第三者評価



株式会社創コンサルティング
代表取締役
海野みづえ

CSR活動の全体

CSRは多様なステークホルダーに対応する企業活動であり対応する範囲が広がりますが、関心度、緊急度の高い課題には優先的に推進することが重要です。昨年から急速に深刻化している地球温暖化問題はその代表で、富士重工業でも既に事業戦略のうえでこの問題を軸として展開されています。ベースとなる基本的CSR(守りのCSR)の強化はもちろんのこととし、自動車を中心とするモノづくり会社として、世界の課題解決につながる事業としてのCSR、つまり戦略的CSR(攻めのCSR)の両面が経営には必要です。

富士重工業が目指しているビジネス・ケースは、①環境性能を実現する自動車開発、②クリーンエネルギーの開発、といえるでしょう。しかしCSR報告書は網羅性に重点を置いていることから、かえって事業に関連するCSR活動が見えにくくなってしまっています。今後は自動車会社ならではの特色あるサステナビリティ戦略を柱とし、これに基本的なCSRをベースとして位置づけるという、企業の姿勢が読み手にも明確にわかる報告をされてはと考えます。

トピック別の活動

■ CSR調達

早急に形を整えるということだけでなく、3年かけて考えていくというプロセスを途絶えさせずに続けてください。まず各事業部の購買担当者が納得いかなければ、現場に根付いた取り組みになりません。今後、アジアや中国など海外のサプライヤーが増えるのであれば、この課題はさらに深刻になってきます。サプライヤーとの協働や地域の課題を一緒に解決していくという姿勢を基本に、ガイドラインの構築に向けて準備をしてください。

■ 顧客対応

昨年4月のお客さま第一推進部の設置後、1年間で成果が徐々にあがってきているようです。チェックシートによる課題の見える化の次は、これらを解決する実践プログラムの具体化になります。本部との連携のもとで内

昨年の評価についての対応は本報告書でも報告されており、すぐに成果の出せない分野についても取り組みを始めていることが伺えます。今後ともCSR担当者だけでなく、富士重工業の社員全員が意識を持ち続けていられるよう、継続して取り組んでください。

部でのコミュニケーションを深め、特約店のベストプラクティスを他の店舗にも展開することで、「お客さま第一主義」を浸透させてください。

■ CSRでのPDCAの展開

活動の基本となる方針の設定や体制の構築については、CSRのどの分野についても大方の整備が進んでいます。意識調査も継続して行っており、海外への展開も徐々に広がっていることが伺えます。体制づくりだけで終わらず、成果のチェック～アクションの実施を各担当部門に徹底してください。

報告の媒体と内容

CSRについての方針や体制の情報と毎年のパフォーマンス報告の情報等が混在しており、ひとつの冊子にすべてのCSR情報を掲載することが難しくなっています。記載内容が多くなるため、すべての読者のニーズに応えるようにもかえってわかりにくいという問題にもなります。そこで、下記のようなケースはウェブでの掲載を併用することを提案いたします。

- 人事制度、環境負荷への取り組み、日常的な改善や地域貢献活動など、一度構築すれば継続される基盤部分と、これに伴うオペレーションの実際やパフォーマンス報告。
- 車種ごとの自動車の環境性能。冊子ではすべてのモデルの技術情報や環境性能を掲載することはできないため、情報量に偏りが生じる。

プロフィール

海野 みづえ

株式会社創コンサルティング 代表取締役

<http://www.sotech.co.jp>

経営コンサルティング会社に勤務の後、1996年に創コンサルティングを設立。日本企業のグローバル経営に視点を置き、独自の分析眼で環境・CSR分野での経営のあり方を提言、企業活動の実務をサポートしている。プラザー工業社外取締役、東京大学大学院、法政大学大学院非常勤講師。著書に、「グローバルCSR調達」、2006年(共著)、「SRIと新しい企業金融」、2007年(共著)などがある。

第三者評価をいただいて

今年は昨年に引き続き、創コンサルティングの海野みづえ様に、当社のCSR・環境委員会委員長の高木代表取締役専務、同副委員長の高橋執行役員に対するトップインタビューや購買部長の石原常務とのヒアリングを通じ、スバルの社会性および環境活動を客観的にご確認いただきました。

今後、これまでいただいたご意見を真摯に受け止めて、諸活動のレベルアップを図ってまいります。

(1) CSR活動全般

スバルグループの従業員一人ひとりが「CSRは企業経営そのもの」という基本的な考えを再認識し、「コンプライアンスの順守を主体とした守りのCSR」に加え、「総合輸送機器メーカーとして競争力のある商品、サービスの提供をはじめとした攻めのCSR」活動の強化を通じて地球温暖化等の社会的課題への対処や地域貢献を積極的に推進してまいります。

① CSRマネジメント

スバルグループとして、「守りのCSRと攻めのCSR」という基本的な

考えと確実なPDCAマネジメントの実施による活動のレベルアップを推進してまいります。

② お客さま第一

「お客さま第一」に関するベストプラクティスの把握と共有およびプロセス・ベンチマーキングの徹底により、スバルグループにおける「お客さま第一主義」の実現を図ってまいります。

③ CSR調達

ISOによるCSRガイドライン策定等のグローバルな動向を注視しつつ、お取引先さまや地域との連携を図り、CSR調達ガイドラインの策定、準備を進めてまいります。

(2) CSR報告のあり方

2006年から環境報告書を社会・環境報告書に改めて発行してまいりました。

これまでいただいた読者の方々のご意見も踏まえて、より社会性を重視したCSR報告書への変革、冊子版とweb版との位置付けを含めて本報告書のあり方を見直してまいります。

～編集・発行～

富士重工業株式会社 総務部 CSR・環境推進室 ●鈴木達也 関川隆雄 栗田一幸

お問い合わせ先 ●TEL03-3347-2036 FAX03-3347-2381

制作支援・印刷 ●日本ビジネスアート株式会社



環境シンボルマークについて

2005年6月に、当社はスバルグループの環境シンボルマークを設定しました。マークの中心に「葉」をデザインし、「緑の大地」と「青い空」の地球をコンセプトとし、当社の環境方針に述べられている「地球と社会と人にやさしい商品と環境づくり」に積極的に取り組んでいく想いをこのマークに込めています。

富士重工業株式会社

Fuji Heavy Industries Ltd.

〒160-8316
東京都新宿区西新宿一丁目7番2号

2008年7月発行

用紙での配慮



FSC認証紙の使用

厳しい基準に従い、適切に管理された森林の木材を原料にしている紙を使用しました。

印刷での配慮



Non-VOCインキの使用

VOC（揮発性有機化合物）成分ゼロの環境に配慮した100%植物油インキを使用しました。



水無し印刷

有機物質を含んだ溶液が少ない、水なし印刷方式で印刷しました。